

F. メンデルスゾーンのロンドンにおける演奏活動

小石 かつら

F.メンデルスゾーンが、本拠地であるベルリンやライプツィヒだけでなく、本拠地以外でも演奏活動をくりひろげ、中でも、イギリスへ10回におよぶ演奏旅行をしたことは、一般によく知られている。しかもイギリスは、メンデルスゾーンが演奏活動を行った唯一の「外国」である。しかし、その詳細についての研究は、現在まで十分になされていない。本論文の目的は、メンデルスゾーンのロンドンでの演奏活動に関する基礎データを網羅し、その全体像を呈示することである。

本論文では、メンデルスゾーン自身が、どこで、何の曲を演奏したのかという、彼自身のロンドンにおける演奏活動全般の詳細に加え、メンデルスゾーンの不在時に彼以外の人物によって指揮(演奏)された彼の作品(いわゆるメンデルスゾーン作品の受容)、の二点について明らかにした。前者については、メンデルスゾーンが初めてロンドンを訪問した1829年からメンデルスゾーンの死の年である1847年までの全10回の訪問の詳細を、後者については、同期間におけるロンドン・フィルハーモニー協会での演奏状況を一覧表にし、それに基づく検討を加えた。その結果、1835年にライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団に職を得るまでは、メンデルスゾーンにとってイギリス訪問は、自身の作品を初演する場として重要であったが、その後は、作曲家としてのみならず、ひとりの指揮者として、イギリスでの未発表作品を初演し紹介することが主な役割となったことが明らかになった。さらに、ロンドン・フィルハーモニー協会の演奏会では、メンデルスゾーンが「(演奏会用)序曲」の演奏に多く関わっていたこと、彼の演奏会用序曲がとりわけ好んで演奏されていたことが明らかとなった。